

原木需給情報システム開発事業関連海外情報

No.21, 11 October 2013



1. 台湾向け日本産木材の輸出の増加傾向続く

台湾の業者は、2008年頃から日本産スギの利用を始めた。その年のスギ原木の輸入量は約500m³だったが、主にコンクリート型枠加工への中国産スギ又は合板の代替材として使われていた。その輸入量は、翌年の2009年に4,500m³、2010年38,300m³、2011年に57,900m³、2012年に66,600m³にのぼり、急増傾向が続いている。今年の1月～8月の輸入量は49,100m³にのぼり、前年を越える勢いを見せている。

台湾向け輸出のスギ原木は、主に直径10～25cm、長さ2～4mのもので、日本内需市場との競争を避ける低等級原木である。

台湾向け日本産原木の輸出量

年	スギ %		ヒノキ・ヒバ %		台湾の原木輸入量に占める日本産原木の割合 (%)
	m ³	台湾向け日本産原木の輸出量に占める割合 (%)	m ³	台湾向け日本産原木の輸出量に占める割合 (%)	
2008	560	48.3	600	51.7	0.16
2009	4,500	91.8	400	8.2	0.80
2010	38,300	95.5	1,800	4.5	5.14
2011	57,900	97.5	1,500	2.5	8.77
2012	66,600	97.1	2,000	2.9	9.58
2013.1～8	49,100	96.5	1,800	3.5	11.01

2. 台湾の2013年1～8月主要木材製品輸入量

下表は、台湾の税関統計に基づいて集計した2013年1～8月の主要木材製品の輸入量です。

この表から分かるように、2013年1～8月におけるパーティクルボード、繊維板の輸入量は前年同期比でほぼ横ばいとなっている。一方、原木、製材品、合板、ブロックボード、ランバーコアの輸入量は前年同期と比べて増加している。

台湾の2013年1～8月主要木材製品輸入量 (m³)

品目	2013年8月	2012年8月	2013年1～8月	2012年1～8月
原木	50,231	69,088	462,381	453,154
製材品	93,379	73,999	807,189	772,739
合板	53,699	52,802	451,468	411,001
ブロックボード	529	1,240	7,383	5,743
単板	20,386	20,855	176,566	148,233
ランバーコア	30,213	19,565	245,348	203,558
パーティクルボード	17,785	22,613	172,560	179,091
繊維板	10,141	13,315	100,360	101,334

(海外レポートに基づき抜粋・編集)